

最新型コロナワクチン、米成人の接種率は15%未満

11/20 フォーブスジャパン



Ringo Chiu / Shutterstock.com (フォーブス ジャパン編集部)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2020年初頭からこれまでに115万人を超える米国人を死に至らしめた。今なお800万人以上が後遺症に苦しんでいる。だが、最新型ワクチンの接種率の低さや最近実施された調査結果を見ると、米国で新型コロナウイルスを真の脅威とみなす人は減る一方のようだ。

道行く人を見ればわかるように、多くの人がマスクの使用をすっかりやめてしまった。空気清浄機を稼働させ、手指消毒用のアルコールを常備しておくといった感染予防策を続けている企業も、どうやら減少の一途をたどっている。11月17日現在の米疾病対策センター（CDC）の統計によれば、最新の最新型コロナワクチンを接種した人は小児でわずか5.4%、18歳以上の成人で14.8%、65歳以上の高齢者でも31.7%にとどまる。

最新型ワクチンの接種率はなぜこんなに低いのだろうか。カイザー・ファミリー財団（KFF）の調査では、最新型コロナワクチンの接種を以前受けたことがあるが最新型の追加接種は受けなかったと答えた成人の半数以上が、感染リスクを心配していないことを主な理由に挙げている。

どのような理由付けをしたところで、今秋の米国におけるワクチン接種状況は到底満足のいくものではない。最新型ワクチンは、今年に入って流行の主流となったオミクロン株XBB.1.5系統に対応しており、最近感染が拡大しているEG.5系統やBA.2.86系統などのオミクロン変異株にも非常に優れた予防効果を発揮するとされている。

また、最新型コロナワクチンの予防効果は接種後4~6カ月で弱まり始める。つまり、ワクチンを追加接種するというのは、スマートフォンのソフトウェアを更新するようなもの

だ。最後にワクチンを接種したのが2023年前半かそれ以前の人が、現在どのくらいきちんと感染リスクから守られているかはわからないのだ。

にもかかわらず、新型コロナワクチン接種への関心は2022年以降、確実に低下している。最初の2回接種を完了した米国在住者は全年齢で69.5%、18以上の成人では79.1%だったのに対し、追加接種率はこれをはるかに下回り、インフルエンザワクチンの接種率よりも低い。

今季のインフルエンザ予防接種を受けた人はすでに小児で35.1%、18歳以上の成人で36.3%、65歳以上の高齢者で59.5%に上っている。ということは、最新の新型コロナワクチンの接種率が低いのは、ワクチン全般に対する認識に原因があるのではなく、COVID-19に対する認識に起因する可能性がある。

「コロナは消えていないが気にしない」米国人

実際、10月31日～11月7日に米国内の成人1301人を対象にKFFが電話とインターネットで行った最新調査の結果からは、多くの米国人が「新型コロナウイルスは消えていないが自分は気にしない」と考えていることがうかがえる。年末年始にかけて3年連続で感染急拡大が起きたというのに、誰かを感染させてしまうかもしれないと懸念する人は31%にすぎず、自分が感染して重症化する可能性を心配している人は28%しかいなかった。

回答者の約半数は、例示された感染予防措置を取るつもりはないと答えた。大人数の集まりを避ける予定の人は35%、人混みではマスクを着用する予定だと答えたのは30%、友人や家族を訪ねる前に感染していないか検査するつもりの方はわずか18%だった。

2021年以来、多くの政治家や企業家が新型コロナウイルスをなかったことにしようとしてきたように見える点を考えると、これらの数字の低さはさほど驚くべきことではないのではなかろうか。COVID-19と感染対策は政治的に利用されてきたため、感染拡大防止策の強化に政治家がやや慎重になっている可能性はある。

ホワイトハウスと連邦政府は、今秋から冬にかけて講じるべき具体的な感染対策について明確なメッセージを発信していない。その結果、人々は推測で判断したり、ソーシャルメディアで拡散されている怪しい情報に頼ったりすることになりかねないが、それはトイレの落書きにしたがって仕事や恋愛、人生の決断を下すようなものだ。さらに、国家規模の包括的な監視システムがなければ、新型コロナウイルスの動向を追跡し、感染リスクの高い環境や条件を把握することも難しくなる。米国は今後の新型コロナ対策をめぐって、いささか暗中模索の状況に陥っているようだ。

ソーシャルメディア上では「#Covidisnotover（コロナは終わっていない）」というハッシュタグが拡散され続けているが、事実、コロナ禍はまだ終わっていない。2020年当時ほどの脅威ではなくなったものの、今も感染すれば冗談では済まない。ワクチン接種を済ませていても重症化したり後遺症が残ってしまったりする恐れがあり、そのリスクは追加接種を重ねるほど低くできる。あらゆる兆候から見て、新型コロナウイルスは流行を繰り返すことになりそうだ。

ウイルスは「信ずれば成る」とか「病は気から」とか「はったりで乗り越えろ」といった人生訓的なお題目でどうにかできるものではない。だからといって、ウイルスに怯えて暮らし、やりたいことも我慢して生きろということではない。今、そしてこの先、新型コロナウイルスにどう対処するのかについて、もっと明確な国家計画が必要だ。